

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第4146396号  
(P4146396)

(45) 発行日 平成20年9月10日 (2008.9.10)

(24) 登録日 平成20年6月27日 (2008.6.27)

(51) Int.Cl.

E05C 17/30 (2006.01)

F I

E O 5 C 17/30

請求項の数 6 (全 12 頁)

(21) 出願番号 特願2004-177391 (P2004-177391)  
 (22) 出願日 平成16年6月15日 (2004.6.15)  
 (65) 公開番号 特開2006-2370 (P2006-2370A)  
 (43) 公開日 平成18年1月5日 (2006.1.5)  
 審査請求日 平成18年9月22日 (2006.9.22)

(73) 特許権者 000107572  
 スガツネ工業株式会社  
 東京都千代田区東神田1丁目8番11号  
 (74) 代理人 100064469  
 弁理士 菊池 新一  
 (74) 代理人 100099612  
 弁理士 菊池 徹  
 (72) 発明者 山口 幸史  
 東京都千代田区東神田1丁目8番11号  
 スガツネ工業株式会社内  
 審査官 引地 麻由子

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 伸縮ステー

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

内側アームやこの内側アームを摺動自在に嵌合された外側アームを含むステー本体と、  
 このステー本体の内外側の両アームを所定の重合位置でロックするためのロック手段とを  
 備えており、そのうちのロック手段が、外側アームに取り付けられた案内部材に配置され  
 てロックばねで付勢されるロック杆と、内外側の両アームをロックするようにロック杆が  
 係入するものであって内側アームに設けられたロック孔とを有している伸縮ステーにおい  
 て、

前記外側アームがその長さ方向にわたる平板部を有するものであること、

前記外側アームに摺動自在に嵌合された前記内側アームが当該外側アームの内面に内接  
 していること、

前記ロック手段の案内部材が、前記外側アームの平板部の内面に係合するものであって  
 前記内側アーム内に介在される基部を備えていること、

前記内側アームの内部に嵌め込まれた前記案内部材の基部が前記外側アーム平板部内面  
 に係合し、かつ、前記内側アームが前記案内部材の基部と前記外側アームとの隙間内に介  
 在してその外側アーム内を摺動自在であること、および、

前記案内部材の基部が前記外側アームの平板部の内面と係合するように前記ロックばね  
 がその案内部材を更に付勢していること

を特徴とする伸縮ステー。

【請求項 2】

10

20

内側アームやこの内側アームを摺動自在に嵌合された外側アームを含むステー本体と、このステー本体の内外側の両アームを所定の重合位置でロックするためのロック手段とを備えており、そのうちのロック手段が、外側アームに取り付けられた案内部材に配置されてロックばねで付勢されるロック杆と、内外側の両アームをロックするようにロック杆に係入するものであって内側アームに設けられたロック孔とを有している伸縮ステーにおいて、

前記外側アームがその長さ方向にわたる平板部を有するものであること、

前記外側アームに摺動自在に嵌合された前記内側アームが当該外側アームの内面に内接していること、

前記ロック手段の案内部材が、前記外側アームの平板部を貫通することのできる筒部と、この筒部に設けられて外側アームの平板部の内面に係合する基部とを備え、かつ、その基部が前記内側アーム内に介在されるものであること、

前記内側アームの内部に嵌め込まれた前記案内部材について、この案内部材の筒部が前記外側アームの平板部を貫通し、かつ、この案内部材の基部が前記外側アームの平板部内面に係合し、しかも、前記内側アームが案内部材の基部と前記外側アームとの隙間内に介在してその外側アーム内を摺動自在であること、および、

前記案内部材の基部が前記外側アームの平板部の内面と係合するように前記ロックばねがその案内部材を更に付勢していること

を特徴とする伸縮ステー。

【請求項 3】

請求項 1 又は 2 に記載の伸縮ステーであって、前記案内部材の基部と前記外側アームの平板部とを係止したことを特徴とする伸縮ステー。

【請求項 4】

請求項 1 又は 2 に記載の伸縮ステーであって、前記案内部材の基部は、前記外側アームの平板部の係止部に係止する少なくとも 1 つの係止突起を有することを特徴とする伸縮ステー。

【請求項 5】

請求項 4 に記載の伸縮ステーであって、前記外側アームの平板部の係止部は、係止孔であることを特徴とする伸縮ステー。

【請求項 6】

請求項 2 乃至 5 のいずれかに記載の伸縮ステーであって、前記案内部材の筒部は、前記ばねの上端に係合するばね係合部を有することを特徴とする伸縮ステー。

10

20

30

40

50

## 【発明の詳細な説明】

## 【技術分野】

## 【0001】

本発明は、物体又は構築物の揺動式開閉蓋又は扉の如き種々の揺動部材を所定角度の開  
放位置で支えるのに用いられる伸縮ステーに関し、特に相互に摺動自在に嵌合された内外  
のアームを所定伸縮位置でロックするロック杆を案内する案内部材の取り付けを改良した  
伸縮ステーに関するものである。

10

## 【背景技術】

## 【0002】

この種の伸縮ステーは、一般に、内側アーム（第1のアーム）とこの内側アームが摺動  
自在に嵌合された外側アーム（第2のアーム）とを含むステー本体と、ステー本体の内外  
のアームを所定の重合位置でロックするロック手段とを備えており、ロック手段は、外側  
アームに取り付けられた案内筒に配置されてロックばねによって内側アームに向けて付勢  
されるロック杆と内側アームに設けられ内外のアームをロックするようにロック杆が係入  
するロック孔とから成っている（特許文献1参照）。ロック杆は、案内筒から露出する先  
端部分に固定された摘みを有し、この摘みをロックばねに抗して引き上げてロック杆をロ  
ック孔から外してロックを解除するようにしている。

20

## 【0003】

従来技術の伸縮ステーにおいて、ロック手段の案内筒は、外側アームの平板部の取付孔  
を貫通して取り付けられるが、案内筒の下縁は薄肉小径部を有し、この薄肉小径部を外側  
アームの内側から加締めて案内筒を薄肉小径部の肩部と加締め部とで挟持して外側アーム  
に取り付けられている（特許文献1の図4及びその説明部分参照）。

## 【0004】

しかし、このような構造では、案内筒を外側アームに取り付ける構造が複雑であり、特  
に案内筒の薄肉小径部を外側アームの狭い内部で加締める作業は極めて困難であって、取  
り付けが面倒である欠点を有していた。

30

## 【0005】

【特許文献1】実公平6-40825号公報

## 【発明の開示】

## 【発明が解決しようとする課題】

## 【0006】

本発明が解決しようとする1つの課題は、案内部材の取り付けが簡単であり、従って組  
み立てが容易な伸縮ステーを提供することにある。

## 【0007】

40

本発明が解決しようとする他の課題は、案内部材を取り付ける特別な作業を必要とする  
ことなく、組み立てることができる伸縮ステーを提供することにある。

## 【課題を解決するための手段】

## 【0008】

本発明の1つの基本的な課題解決手段は、

内側アームやこの内側アームを摺動自在に嵌合された外側アームを含むステー本体と、  
このステー本体の内外側の両アームを所定の重合位置でロックするためのロック手段とを  
備えており、そのうちのロック手段が、外側アームに取り付けられた案内部材に配置され  
てロックばねで付勢されるロック杆と、内外側の両アームをロックするようにロック杆が  
係入するものであって内側アームに設けられたロック孔とを有している伸縮ステーにおい

50

て、

前記外側アームがその長さ方向にわたる平板部を有するものであること、

前記外側アームに摺動自在に嵌合された前記内側アームが当該外側アームの内面に内接していること、

前記ロック手段の案内部材が、前記外側アームの平板部の内面に係合するものであって前記内側アーム内に介在される基部を備えていること、

前記内側アームの内部に嵌め込まれた前記案内部材の基部が前記外側アーム平板部内面に係合し、かつ、前記内側アームが前記案内部材の基部と前記外側アームとの隙間内に介在してその外側アーム内を摺動自在であること、および、

前記案内部材の基部が前記外側アームの平板部の内面と係合するように前記ロックばねがその案内部材を更に付勢していること

を特徴とする伸縮ステアを提供するものである。

【 0 0 0 9 】

本発明の基本的な課題解決手段において、ロック手段の案内部材は、

基部に設けられ外側アームの平板部を貫通する筒部を備えているものとすることができる。

【 0 0 1 0 】

また、本発明の基本的な課題解決手段において、案内部材の基部と外側アームの平板部とを係止していることが好ましく、この係止は、基部に設けられ外側アームの平板部の係止部に係止する係止突起によって行うことができ、この場合、この係止部は、係止孔とすることができる。

【 0 0 1 1 】

また、案内部材は、ばねの付勢を受けるために、筒部にばねの上端が係合するばね係合部を有するのが好ましい。

【発明の効果】

【 0 0 1 2 】

本発明によれば、上記のように、ロック手段の案内部材が外側アームの平板部の内面に係合する基部を有していて、ロック杆を付勢するロックばねがこの案内部材の基部が平板部の内面に係合するように案内部材を付勢しているので、ロックばねが案内部材を外側アームに固定する機能を有し、案内部材を外側アームに固定する特別の手段を必要とすることがなく、案内筒の取付構造が簡単となる上に、案内筒を加締める面倒な作業を必要とすることがなく、組み立てが容易な伸縮ステアを安価に提供することができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【 0 0 1 3 】

本発明の実施の形態を図面を参照して詳細に述べると、図 1 乃至図 5 は、本発明の 1 つの実施の形態による伸縮ステア 10 を示す。この伸縮ステア 10 は、内側アーム 12 とこの内側アーム 12 が摺動自在に嵌合された外側アーム 14 とを含むステア本体 16 と、このステア本体 16 の内外のアーム 12、14 を所定の重合位置でロックするロック手段 18 とを備えている。内外のアーム 12、14 は、ステンレスその他の適宜の金属材料から作られる。

【 0 0 1 4 】

図示の例では、内側アーム 12 は、図 4 から解るように、断面略 U 字形の形態を有し、その上側開口部には内側に向けて水平に延びる突縁 12a を有するが、非取付端（図 4 の右端）では上側が符号 12b に示すように閉じられている。また、外側アーム 14 は、断面矩形の形態を有し、その一方の平板部 14AW にロック手段 18 の後に述べる案内部材の筒部が貫通する筒貫通孔 20 とその両側にあつて同様に後に述べる案内部材の係止突起が係止する係止孔 22H、22'H である係止部 22 が設けられている。図 4 から解るように、筒貫通孔 20 は、略矩形の形態を有する。

【 0 0 1 5 】

10

20

30

40

50

内側アーム 1 2 は、その閉じられた非取付端を上下から挟むように取り付けられる上下のスライダ片 2 4 P、2 4 ' P から成るスライダ 2 4 を有し、また外側アーム 1 4 は、その非取付端（図 4 の左端）内に挿入されて取り付けられた上下のスライダ片 2 6 P、2 6 ' P から成るスライダ 2 6 を有する。内側アーム 1 2 の非取付端は、スライダ 2 4 が外側アーム 1 4 の内面に係合して摺動し、また内側アーム 1 2 の他の部分は、外側アーム 1 4 内のスライダ 2 6 に係合して摺動する。従って、内側アーム 1 2 の本体は、スライダを有する部分を除いて外側アーム 1 4 の上下の平板部に接触していない状態で外側アーム 1 4 内を摺動する。なお、本明細書において「非取付端」とは、伸縮ステーが扉やこの扉によって開閉される物体に取り付けられる端ではない端を意味する。

【 0 0 1 6 】

スライダ片 2 4 P、2 4 ' P は、図 4 及び図 5 に示すように、その相対する面に突起 2 4 A、2 4 ' A を有し、これらの突起ピン 2 4 A、2 4 ' A は、内側アーム 1 2 の取付孔 2 4 H、2 4 ' H に圧入してスライダ片 2 4 P、2 4 ' P を内側アーム 1 2 に固定し、またスライダ片 2 6 P は、図 4 及び図 5 に示すように、その外面に突起 2 6 A を有し、この突起 2 6 A は、外側アーム 1 4 の取付孔 2 6 H に圧入してスライダ片 2 6 P を外側アーム 1 4 に固定し、スライダ片 2 6 ' は、図 4 及び図 5 に示すように、その外面に突板部 2 6 ' A を有し、この突板部 2 6 ' A は、外側アーム 1 4 の矩形状の係止孔 1 4 H（図 6 参照）に係入してスライダ片 2 6 ' P を外側アーム 1 4 に固定している。なお、係止孔 1 4 H は、後にステーの組立てに関連して述べるように、案内部材 5 0 を外側アーム 1 4 に組み込む際に案内部材 5 0 が通過する孔を兼ねている。

【 0 0 1 7 】

内側アーム 1 2 の取付端（図 1 の左端）には、例えば、図示しない収納箱の扉の如き開閉部材の背面にねじ止めされるべき略 L 字形のブラケット 3 0 が枢動自在に取り付けられている。更に詳細に述べると、このブラケット 3 0 は、図 1 及び図 3 から解るように、ブラケット 3 0 の取付け片 3 0 A に設けられたピン 3 2 を内側アーム 1 2 の取付端に設けられた取付孔 3 2 H を貫通させて内側アーム 1 2 内に突出するピン部分に座金 3 6 を嵌め、更にその上の係止溝 3 2 G に C 形止め輪 3 8 を嵌めて込んで内側アーム 1 2 に枢動自在に取り付けられている。ブラケット 3 0 の固定片 3 0 B にはねじ貫通孔 3 0 H を有し、ブラケット 3 0 は、このねじ貫通孔 3 0 H にねじを貫通して開閉部材にねじ止めされる。

【 0 0 1 8 】

また、外側アーム 1 4 の取付端（図 1 の右端）には、例えば、収納箱の開口縁にねじ止めされるべき略三角形の平板状のブラケット 4 0 が枢動自在に取り付けられている。更に詳細に述べると、このブラケット 4 0 は、図 1 及び図 2 から解るように、その三角形の頂部付近に設けられたピン 4 2 を外側アーム 1 4 の他方の平板部 1 4 B W に設けられた取付孔 4 2 H を貫通させて外側アーム 1 4 内に突出するピン部分の環状溝 4 2 G にホルダー 4 4 を嵌め込んでこのピン 4 2 を弾性的に保持している。ホルダー 4 4 は、ピンの環状溝 4 2 G を抱き込む C 形ばね 4 4 S とこのばね 4 4 S を保持して外側アーム 1 4 の取付端の開口部に嵌め込むことができる嵌め込み部 4 4 H とから成っている。ブラケット 4 0 にはねじ貫通孔 4 0 H を有し、ブラケット 4 0 は、このねじ貫通孔 4 0 H にねじを貫通して収納箱の開口縁にねじ止めされる。

【 0 0 1 9 】

ロック手段 1 8 は、特に、図 4 及び図 5 から解るように、アーム 1 4 に取り付けられた案内部材 5 0 に配置されてロックばね 5 2 によって付勢されるロック杆 5 4 と内側アーム 1 2 に設けられ内外のアーム 1 2、1 4 をロックするようにロック杆 5 4 が係入するロック孔 5 6 とから成っている。ロック手段 1 8 は、更に、ロック杆 5 4 の頂部に固定されてロック杆 5 4 をロックばね 5 2 に抗してロック孔 5 6 から抜き出すための冠状の摘み 5 8 を有する。ロック孔 5 6 は、図 4 に示すように、ステー 1 0 の伸長状態でロック杆 5 4 が係入するように、内側アーム 1 2 の右側に設けられている。

【 0 0 2 0 】

図 4 及び図 5 に示すように、ロック手段 1 8 の案内部材 5 0 は、外側アーム 1 4 の平板

10

20

30

40

50

部 1 4 A W に設けられた筒貫通孔 2 0 を貫通しロック杆 5 4 を案内する筒部 6 0 とこの筒部 6 0 に一体に設けられ平板部 1 4 A W の内面に係合する基部 6 2 とから成っている。

【 0 0 2 1 】

案内部材 5 0 の筒部 6 0 は、図 4 から解るように、筒貫通孔 2 0 の形状に相応するほぼ矩形の断面の外周面を有し、従って筒部 6 0 は、筒貫通孔 2 0 を貫通して外側アーム 1 4 に取り付けられると、回り止め状態で取り付けられる。基部 6 2 は、図 4 から解るように、筒部 6 0 の両側から水平に延びる平板の形態を有し、その両側面には内側アーム 1 2 の突条 1 2 a が係入して内側アーム 1 2 の長手方向の移動を許す逃げ溝 6 2 G を有する。なお、既に述べたように、案内部材 5 0 は、外側アーム 1 4 の平板部 1 4 B W 側に設けられたスライダ係止用の係止孔 1 4 H ( 図 6 ( B ) ( C ) 参照 ) を通して外側アーム 1 4 内に

10

【 0 0 2 2 】

ロックばね 5 2 は、筒部 6 0 の上端に設けられた内鑊の形態のばね係止部 6 0 F ( 図 5 参照 ) とロック杆 5 4 の肩部 5 4 S との間に配置されてロック杆 5 4 を図 5 の下向きに付勢してロック杆 5 4 の先端部 5 4 T をロック孔 5 6 に係入すると共に、案内部材 5 0 の筒部 6 0 を図 5 の上向きに付勢して基部 6 2 を外側アーム 1 4 の平板部 1 4 A W の内面に係合している。従って、案内部材 5 0 は、ロックばね 5 4 の付勢によって基部 6 2 を外側アーム 1 4 に押し付けて固定されることが解る。

【 0 0 2 3 】

案内部材 5 0 の基部 6 2 は、外側アーム 1 4 の平板部 1 4 A W の係止孔 2 2 H 、 2 2 ' H に入り込んで係止される係止突起 6 4 、 6 4 ' を有し、従って案内部材 5 0 は、筒部 6 0 と係止突起 6 4 、 6 4 ' とが外側アーム 1 4 の平板部 1 4 A W に係止してロックばね 5 4 による付勢と相俟って外側アーム 1 4 に確実に固定される。なお、図示の形態では、案内部材 5 0 の係止突起 6 4 、 6 4 ' が係入する係止部 2 2 が係止孔 2 2 H 、 2 2 ' H であったが、これは係止突起 6 4 、 6 4 ' が係入する係止溝であってもよい。

20

【 0 0 2 4 】

摘み 5 8 は、案内部材 5 0 の筒部 6 0 に被せられるようにしてロック杆 5 4 に取り付けられている。更に詳細に述べると、摘み 5 8 は、図 5 及び図 7 に示すように、その内部に中壁 6 6 を有し、頭付きボルト 6 8 は、この中壁 6 6 のボルト貫通孔 6 6 H を貫通してロック杆 5 4 にねじ込まれて摘み 5 8 をロック杆 5 4 に固定している。キャップ 7 0 は、摘み 5 8 の頂部のへこみ 5 8 R に位置する頭付きボルト 6 8 の頭部を隠蔽するように摘み 5 8 のへこみ 5 8 R に係入して被せられる。なお、図 5 において、符号 7 2 、 7 2 ' は、摘み 5 8 の中壁 6 6 とロック杆 5 4 の頭部との間及び中壁 6 6 と頭付きボルト 6 8 の頭部との間にそれぞれ挿入された座金、また符号 7 4 は、頭付きボルト 6 8 が中壁 6 6 を貫通する部分に配置されたスペーサである。

30

【 0 0 2 5 】

次に、本発明の伸縮ステーの組み立て方法を述べると、図 4 に示すように、案内部材 5 0 を外側アーム 1 4 のスライダ係止用の係止孔 1 4 H を通して外側アーム 1 4 に入り込ませ、この案内部材 5 0 の筒部 6 0 内にロックばね 5 2 とロック杆 5 4 とを挿入する。

【 0 0 2 6 】

摘み 5 8 の中壁 6 6 のボルト貫通孔 6 6 H にスペーサ 7 4 を挿入し、頭付きボルト 6 8 をこのボルト貫通孔 6 6 H に貫通し、ロック杆 5 4 を座金 7 2 、 7 2 ' で挟んで摘み 5 8 を案内部材 5 0 の筒部 6 0 に被せ、頭付きボルト 6 8 をロック杆 5 4 に締め込んで摘み 5 8 をロック杆 5 4 に取り付けると共に案内部材 5 0 の基部 6 2 を外側アーム 1 4 の平板部 1 4 A W の内面に押し付ける。なお、摘み 5 8 のへこみ 5 8 R は、キャップ 7 0 を押し込んで隠蔽する。

40

【 0 0 2 7 】

次いで、摘み 5 8 によってロック杆 5 4 をロック孔 5 6 から解除しながら下スライダ片 2 6 ' P をその突板部 2 6 ' A が係止孔 1 4 H に係入されるまで引き込み、その後上スライダ片 2 6 を押し込む。図 5 に示すように、上スライダ片 2 6 の係止突起 2 6 A は、押し

50

込み方向に次第に上向きに傾斜する傾斜面 26AS を有するので、上スライダ片 26P は、この傾斜面 26AS に沿って押し下げられながら押し込まれて係止突起 26A が係止孔 26H に相対すると、係止突起 26A が係止孔 26H に嵌まり込み、上下のスライダ片 26P、26'P が外側アーム 14 に固定される。摘み 58 を解放すると、ロック杆 54 は、下スライダ片 26' のロック杆逃げ孔 26'h に係入するが、この逃げ孔 26'h は、設けなくてもよい。

【0028】

内側アーム 12 の非取付端に上下のスライダ片 24P、24'P を取り付けた後、外側アーム 14 の取付端側の開口から内側アーム 12 を引き入れ、その取付端を外側アーム 14 の非取付端の開口から引き出す（図 1 参照）。この作業は、摘み 58 をロック解除の方向に持ち上げながら行われる。

10

【0029】

次いで、内側アーム 12 の取付端にブラケット 30 を取付け、また外側アーム 14 の取付端にブラケット 40 を取り付けて伸縮ステー 10 の組み立てを完了する。

【0030】

この伸縮ステー 10 は、例えば、ブラケット 30 及び 40 を収納箱の蓋と箱本体にそれぞれねじ止めして収納箱に使用することができる。伸縮ステー 10 の内側アーム 12 を引き出して伸縮ステー 10 を伸長しながら蓋を開くことができ、この開放状態を維持するために、摘み 58 を解放すると、ロック杆 54 がロックばね 52 によってロック孔 56 に係入してこの伸張状態を維持する。蓋を閉じるときには、摘み 58 をロックばね 52 に抗して持ち上げて内側アーム 12 を引き込みながら蓋を閉じる。

20

【0031】

本発明の伸縮ステー 10 は、ロック手段 18 の案内部材 50 が外側アーム 14 の平板部 14AW の内面に係合する基部 62 を有していて、ロック杆 54 を付勢するロックばね 52 がこの案内部材 50 の基部 62 が平板部 14AW の内面に係合するように案内部材 50 を付勢しているので、ロックばね 52 が案内部材 50 を外側アーム 14 に固定する機能を有する。従って、案内部材 50 を外側アーム 14 に固定する特別の手段を必要としないことが解る。

【0032】

なお、上記の実施の形態では、基部 62 に筒部 60 が一体に設けられているが、基部 62 自体の孔がロック杆 54 の案内機能を有するので、外側アーム 14 の平板部 14AW を貫通する筒部 50 を有していなくともよい。

30

【産業上の利用可能性】

【0033】

本発明は、ロック杆をロック孔に係入するように付勢するロックばねがこのロック杆を案内する案内部材を外側アームの内面に押し付けて固定する機能を有するので、案内部材を外側アームに固定する特別の手段を必要とすることがなく、組み立てが容易であり、産業上の利用性が高いことが解る。

【図面の簡単な説明】

【0034】

40

【図 1】本発明に係わる伸縮ステーのブラケットを取り外した状態の斜視図である。

【図 2】図 1 の伸縮ステーの正面図である。

【図 3】図 1 の伸縮ステーの側面である。

【図 4】図 1 の伸縮ステーの分解斜視図である。

【図 5】本発明の要部の拡大断面図である。

【図 6】図 1 の伸縮ステーに用いられる外側アームを示し、同図（A）は、その正面図、同図（B）は、その上面図、同図（C）は、その背面図である。

【図 7】図 1 の伸縮ステーに用いられる摘みの拡大断面図である。

【符号の説明】

【0035】

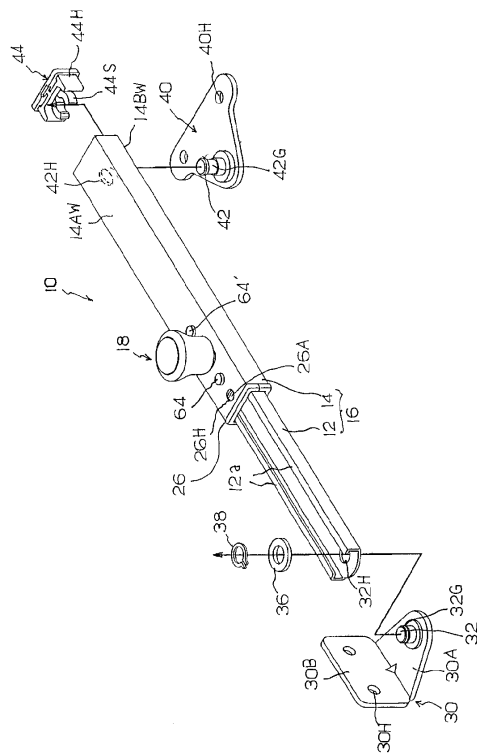
50

1 0	伸縮ステー	
1 2	内側アーム	
1 2 a	内側アームの突縁	
1 2 b	内側アームの閉じ部	
1 4	外側アーム	
1 4 H	係止孔	
1 4 A W	外側アームの一方の平板部	
1 4 B W	外側アームの他方の平板部	
1 6	ステー本体	
1 8	ロック手段	10
2 0	筒貫通孔	
2 2	係止部	
2 2 H、2 2 ' H	係止孔	
2 4	スライダ	
2 4 P、2 4 ' P	上下のスライダ片	
2 4 A、2 4 ' A	突起ピン	
2 4 H、2 4 ' H	取付孔	
2 6	スライダ	
2 6 P、2 6 ' P	上下のスライダ片	
2 6 A	スライダ片 2 6 P の突起	20
2 6 A S	突起の傾斜面	
2 6 H、2 6 ' H	外側アームの取付孔	
2 6 ' A	スライダ片 2 6 ' P の突板部	
2 6 ' h	下スライダ片のロック杆の逃げ孔	
3 0	ブラケット	
3 0 A	取付け片	
3 0 H	ねじ貫通孔	
3 2	ピン	
3 4	取付孔	
3 2 G	係止溝	30
3 6	座金	
3 8	C 形止め輪	
4 0	ブラケット	
4 0 H	ねじ貫通孔	
4 2	ピン	
4 2 G	環状溝	
4 4	ホルダー	
4 4 S	C 形ばね	
4 4 H	嵌め込み部	
5 0	案内部材	40
5 2	ロックばね	
5 4	ロック杆	
5 4 S	肩部	
5 6、5 6 A、5 6 B	ロック孔	
5 8	冠状の摘み	
5 8 R	へこみ	
6 0	筒部	
6 0 F	ばね係止部	
6 2	基部	
6 2 G	逃げ溝	50

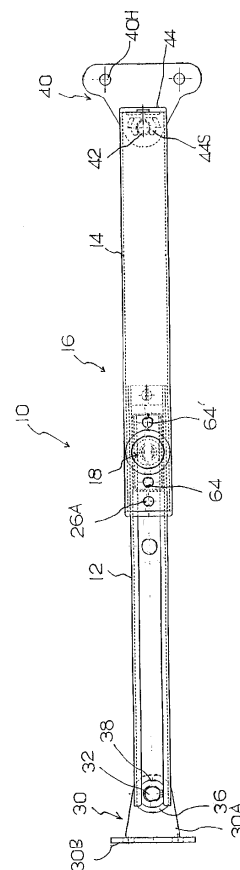


- 64、64' 係止突起
- 66 中壁
- 66H ボルト貫通孔
- 68 頭付きボルト
- 70 キャップ
- 72、72' 座金
- 74 スペーサ

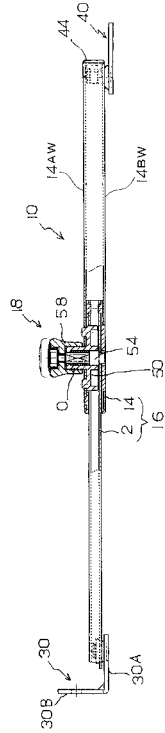
【図1】



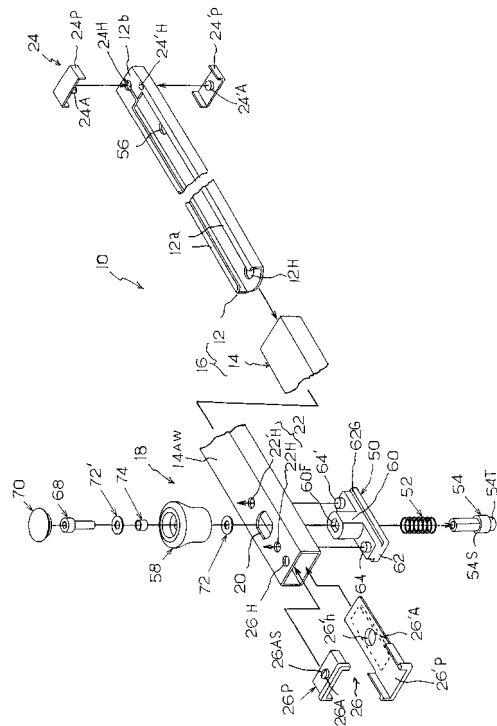
【図2】



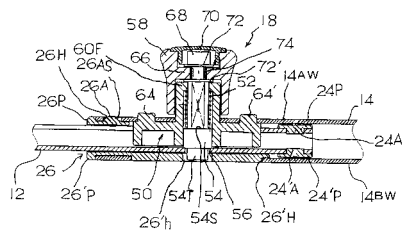
【 図 3 】



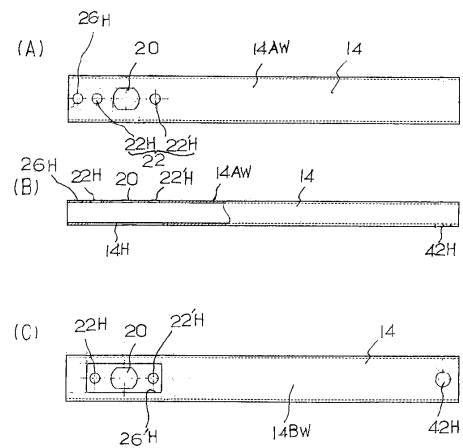
【 図 4 】



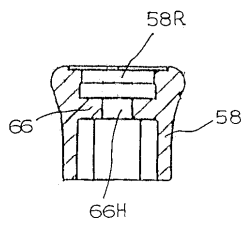
【 図 5 】



【 図 6 】



【図 7】



---

フロントページの続き

(56)参考文献 特開平 0 8 - 1 4 4 6 3 0 ( J P , A )  
実開平 0 7 - 0 1 5 9 7 5 ( J P , U )

(58)調査した分野(Int.Cl. , D B 名)  
E 0 5 C 1 7 / 3 0